

2010 年度事業報告

1. 会誌の編集発行

第 64 巻第 2 号～第 6 号および第 65 巻第 1 号を編集し、発刊した。報文 14、ノート 2、Short Paper 1、総説 9、解説 12 の計 38 件を掲載した。前付け・後付け会告を含め、総ページは 375 頁であった。なお、第 64 巻第 2 号から第 65 巻第 1 号における特集の企画テーマは、「塩と生態」、「2010 年度 日本海水学会 第 61 年会研究技術発表会講演要旨集」、「にがり」を中心としたマグネシウムの食品栄養学的研究、「西日本の海水研究(2)」、「海水資源利用に向けた晶析技術の展開」と「地球環境問題への対策」である。

2. 年会総会・研究技術発表会の開催

平成 22 年 6 月 3 日(木)～4 日(金)の会期で、石巻専修大学において第 61 年会総会・研究技術発表会を開催した。研究技術発表は口頭発表 24 件、ポスター発表 23 件であった。ポスター発表のうち 19 件が口頭発表との重複発表であり、15 件が 35 歳以下の発表者であった。学術賞受賞講演 1 件があり、130 名が参加した。また、学術賞 1 件、技術賞 2 件、奨励賞 2 件および功労賞(田中賞)2 件の表彰を行った。

3. 西日本支部の活動

会誌特集号の企画、編集

第 64 巻 5 号(西日本支部特集号)を、「西日本の海水科学(2)」の特集号として、企画、編集した。

4. 研究会の活動

1) 電気透析および膜技術研究会

荷電膜コロキウムの開催

第 41 回(平成 22 年 8 月 6 日、東工大蔵前会館大会議室、参加者 23 名)を実施した。

2) 海水環境構造物腐食防食研究会

① 研究会例会の開催

第 50 回(平成 22 年 9 月 29 日、広島ガーデンパレス、講演 3 件、参加者 20 名)を実施した。

② 会誌特集号の企画(第 65 巻 2 号、製塩環境における腐食の機構解析と評価技術の開発)

3) 環境・生態系・生物資源研究会

① ミニシンポジウムの開催

「東北沿岸域の環境と資源利用」(平成 22 年 6 月 3 日、日本海水学会第 61 年会会期中、石巻専修大)を開催した。

② セミナーの実施

「第三回室戸地区天然資源回復協議会建設リサイクルワーキング」(平成 22 年 8 月 24 日)において佐藤利夫教授(研究会副代表)がセミナーの活動の一環として講演。

③ 塩サミットの企画

藻塩神事(平成 23 年 7 月、宮城県塩竈市)に併せ開催予定。商工会議所等と実行委員会を設立。東日本大地震の発生により保留。

④ 研究会冊子の発行に向け、具体案作り(収録内容の精査等)を開始。

⑤ その他

研究会会員や関連研究・事業者との交流の場づくり、若手研究者を中心とした活動支援策を検討中。また、会の運営・活動をスムーズかつ活性化策について検討中。

4) 塩と食の研究会

講演会・見学会

味の素(平成 23 年 4 月 25 日、神奈川県川崎市)を予定していたが、東日本大震災のため中止。

5) 分析科学研究会

① ニュースレターの配布

第 10、11 号を発刊した。

② 分析技術講習会(実技講習、平成 22 年 10 月 17～18 日、工学院大学新宿校舎、参加者 9 名)を開催した。

③ ミニシンポジウム・見学会

アサヒビール(株)(平成 23 年 3 月 24 日、茨城県)を予定していたが、東日本大震災により中止。

6) 海水資源・環境研究会

① 企画委員会の実施

- ・海水総合利用技術の構築を目的に、海水循環利用における課題を整理。
- ・また、分科会として、神奈川工科大学准教授市村先生をリーダーに海水総合利用技術のボトルネック研究を発足。

② 研究シーズの探索

- ・東京農工大学准教授滝山先生をリーダーとする可能性探索分科会において、RO 排海水処理技術の確立に向けた調査、検討を開始。
- ・海外における海水資源回収技術の調査を実施。

③ その他

- ・日本海水学会に掲載された報文の PDF 化およびデータベース化を行い、全ての報文について PDF 化を終了。

5. 各種委員会の活動

1) 編集委員会

年 2 回の編集委員会を開催した。第 64 巻第 2 号～第 6 号および第 65 巻第 1 号を企画、編集、発刊した。会誌の電子ジャーナル化について検討し、J-STAGE のシステムを利用して、第 63 巻以降の会誌を順次公開することとした。なお、第 63 巻 1 号については、4 月に公開する予定である。別刷りの PDF 販売について検討し、第 65 巻 1 号から販売を開始した。また、PDF 販売に伴い、投稿規程を改訂するとともに、別刷り料金を変更した。

2) 研究委員会

研究会役員名簿の整備をおこなった。各研究会の活動ならびに予算の執行状況について研究委員会で相互チェックできる体制を整えた。また、研究会の予算執行の透明性をより高めるため、従来の役員(代表、総務幹事、会計担当)に加え、会計監査担当役員を各研究会に設置した。学会からの年度毎の交付金は、研究会毎に一律ではなく、必要に応じて配分されるよう研究委員会で調整した。研究会の活動を海水学会員に如何にして伝えるか、また、研究会活動を会員増につなげる方策などについても意見交換した。

6. 若手会の活動

- 1) 「第10回若手の集い」の開催
日時：平成22年6月2日(水)12:30～20:00
場所：東北電力(株)新仙台火力発電所、キリンビール(株)仙台工場ほか
内容：“水処理”をキーワードとした見学会など
参加者：31名
- 2) 「第2回学生研究発表会」の開催
日時：平成23年3月6日(日)、7日(月)
場所：大学コンソーシアムあきたカレッジプラザ、秋田県立大学、小玉醸造所ほか
内容：ショートプレゼンテーション+ポスター発表会(20件)、特別講演(2件)、見学会など
参加者：54名
- 3) 「学会誌64巻6号若手会特集号」の企画編集
テーマ：海水資源利用に向けた晶析技術の展開
内容：解説2件、総説1件、報文1件、ノート1件
- 4) 「第11回若手の集い」の企画
- 5) 「第2回技術交流ポスターセッション」の企画
- 6) 「若手会企画60周年記念行事」の企画
- 7) 第5回役員会の開催
日時：平成22年6月4日(金)16:00～18:00
場所：石巻専修大学5号館5102室
- 8) 第6回役員会の開催
日時：平成22年8月3日(火)13:00～14:45
場所：塩事業センター本部応接室
- 9) 会員数(平成23年3月末現在)
54名(平成22年3月末より13名増)

7. 事務改善

ホームページ・学会誌を通じて、日本海水学会の企画行事、投稿規定などの最新情報の提供などの会員サービスに努めるとともに、事務局における事務処理の簡素化、マニュアル化を前年度に引続き進めた。

8. 会員異動

個人会員：入会 18名、退会 0名 (21、22年度の慰留者 38名)、年度末現在 383名
維持会員：入会 1社 2口、退会 3社 62口
口数減：1社 3口、年度末現在 47社 367口